

# エル・ネット「オープンカレッジ」 News

発行：高等教育情報化推進協議会 東京都港区虎ノ門1-17-1 視聴覚ビル内 TEL：03-3591-2186 URL：<http://www.opencol.gr.jp>

## 平成15年度 エル・ネット「オープンカレッジ」モデル事業 報告

高等教育情報化推進協議会では、エル・ネット「オープンカレッジ」の効果的な活用についてのモデル事業を、今年度全国8地区に委嘱しました。今回は、各モデル事業について、主な事業内容を報告します。

### ◆モデル事業委嘱先

- 北海道立生涯学習推進センター／○千葉県教育庁教育振興部生涯学習課／○新潟県立生涯学習推進センター
- 佛教大学（京都府）／○大阪市教育委員会事務局市民学習振興課／○広島県立生涯学習センター
- 島根大学生涯学習教育研究センター／○琉球大学生涯学習教育研究センター

### 「道民カレッジ」との 連携講座で地域に根ざす

北海道立生涯学習推進センター

講座：広島大学

『「活性酸素・抗酸化剤」と寿命との関係—過酸化を防げば元気で長生き—』

講座：佛教大学

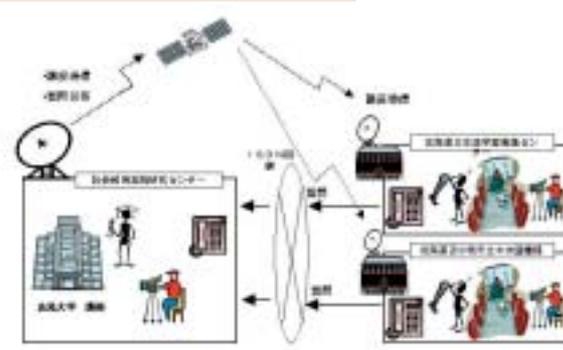
『京都の暮しとまち—京都らしさを求めて』

北海道立生涯学習推進センターが中心となり、広島大学講座『「活性酸素・抗酸化剤」と寿命との関係—過酸化を防げば元気で長生き—』と佛教大学講座『京都の暮しとまち—京都らし



質問風景

ライブ双方向質疑のしくみ（12月20日）



さを求めて』を、道民カレッジの連携講座として位置付けて実施。実施に当たっては、講座の事業名を、広島大学講座は「知って得する健康セミナー」、佛教大学講座は「京都探訪セミナー」と称し、誰もが興味・関心を持って受講できるように工夫しました。広報は、市民広報やホームページへの掲載のほか、道民カレッジの学生に葉書を出したり、独自のチラシを作成したりするなど、力を入れました。

広島大学講座は、テーマとしては専門性の高い内容ですが、「活性酸素」については、意外と話題性が高く、特に高齢者の方には、関心が高かったようです。

受講者も80名近くにはのびりました。特に、12月20日に行われた第4回目の講義は、ライブ放送で双方向の質疑応答が活発に行われました。講師と直接やりとりができたこと、また専門的な内容だけに、視聴だけでは分かりにくい点を詳しく聞くことができ、大変好評で

した。

両講座とも、身近で興味を持てるようなテーマで、受講者の関心を引いたこと、推進センターで別に資料を用意し、配布するなど、地域の実情に合わせて独自に工夫を凝らしたことが、成功の鍵となっています。



番組評価検討委員会のヒアリング調査

## 千葉県独自の 双方向講座を実施

千葉県教育庁教育振興部生涯学習課

講座：淑徳短期大学

『まちづくりと学び「地域に生き、未来を拓く」千葉県編』（千葉県モデル事業特別講座）

千葉県では、12月6日放送の淑徳短期大学講義『まちづくりと学び』『地域に生き、未来を拓く』（講師：山本恒夫教授・浅井経子教授）をもとに、その続編という形で、『千葉県モデル事業特別講座』（講師：浅井経子教授）を実施しました。2月14日、講師のいる「千葉県総合教育センター」（V S A T局）と2つの受講会場（我孫子市生涯学習センター・栄町ふれあいプラザさかえ）とをインターネットテレビ会議システムで結び、双方向のライブ放送で行いました。双方向通信で会話

をしている時には、テレビ画面の左下に我孫子会場、右下に栄町会場がうつるようになっています。

2つの受講会場にいる受講者は、事前に12月6日放送分の講義を視聴し、疑問点等をまとめた上で、当日に臨みました。講義の流れは、有償ボランティアについて、生涯学習パスポートについて、「きわめる」について、という3本柱で構成され、それぞれについて、「各会場から講師への質問」・「質問に関わる12月6日の講義V T R（山本教授の講義）を流す」・「講師からの講義や受講者への質問」・「受講会場からの意見」……と、会話する形で進んでいきました。できるだけ多くの受講者に話をしてもらったり、各会場でグループ協議の時間も取り入れたりして、受講者参加型の講座になるよう工夫しました。

当日までには、リハーサルを行ったり、質問を用意して、シナリオを作っておくなど、準備も必要でしたが、双方向通信・ライブ放送のメリットを最大限に活かし、生涯学習の未来像について、相互に意見交換ができた番組と



研修会の質疑応答風景

なりました。受講者からも、「先生と直接お話できてよかった」という感想が届いています。

また、この講座とは別に、1月30日に、エル・ネット「オープンカレッジ」に関する研修会が、千葉県総合教育センターで行われました。これは、県内市町村生涯学習担当者、社会教育担当者、県立教育機関エル・ネット担当者、社会教育主事を対象に、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用事例の紹介などについて、研修会を行ったものです。県内の受信局設置市町村の半数に上る市町村等から48名の参加があり、エル・ネットに対する関心の高さが伺えました。

## 地域の公開講座と エル・ネット「オープンカレッジ」の連携を探る

新潟県立生涯学習推進センター

講座：新潟大学

『新潟県の地場産業』

新潟県立生涯学習推進センターは新潟県内の市町村及び大学等高等教育機関等と連携して、市町村にテレビ会議システムで講座を配信する「にいがた連携公開講座」の特別講座としてモデル事業を実施しました。東京にある国立オリンピック記念青少年総合センターと新潟県内受講会場（三条市中央公民館・十日町情報館）とをテレビ会議システムで結び（図参照）、V S A T局未設置県からエル・ネット「オープンカレッジ」に参加する方策を探りました。

テーマは、新潟県の特長を全国に発信しようという趣旨で、新潟大学工学

部の原利昭教授の『新潟県の地場産業』を配信しました。新潟県は、三条市の金属製品、燕市の金属洋食器・ハウスウェア、十日町市の織物など、数多くの地場産業が立地し、伝統的かつ優れた技術が受け継がれています。そこで、講義の中では、三条市と十日町市の各会場から、地元の産業を担っている方の意見発表も行われました。これによって、講師との双方向性を持った受講者参加型の講座となり、講座内容に対する広がりがありました。

広報は、独自のチラシを作成し、県内受信施設に配布。その他、広報紙やホームページにも掲載しました。また、事前に地元新聞社の取材を受け、掲載されました。特に、チラシや広報紙を見て応募した方が多く、県内の受講施設では、年配の方を中心に幅広い年齢層の方が、合わせて50～60名集まりました。

なお、「にいがた連携公開講座」第2弾として新潟県立古文書館の「に

ライブ双方向システムのしくみ（10月25日）



いがた連携公開講座」の『古文書で読む江戸時代』も、2月24日エル・ネット「オープンカレッジ」で放送されました。この講座は、岩船広域教育情報センターを主会場に、六日町公民館、青海町総合文化会館、県立生涯学習推進センターを結んで開催されたものです。

## わかりやすい講座番組の開発と 生涯学習ツアーの実施

佛教大学

講座：佛教大学

『京都の暮しとまち－京都らしさを求めて－』

佛教大学のモデル事業の特徴は2つあります。まず1つは、番組づくりにカリキュラムデザイナーの協力を得たことです。講師にとって、テレビカメラを前にした授業は、普通の大学での

授業と違った工夫が必要になってきます。そこで、実際の収録時の技術的なテクニック、たとえばカメラワーク、資料提示の仕方、編集のテクニックなどのノウハウについて、総論的にアドバイスをもらいながら、先生と一緒にプロデュースしてもらいました。これによって、映像をふんだんに使った、放送ならではの充実した講座番組となりました。

もう1つは、講義終了後の生涯学習ツアーです。これは、2月12日の講義『京の祭り 祇園祭「綾傘鉾」のハレとケ』の続編として、2月17日に実施されました。普段見ることができない綾傘鉾を、保存会の方の協力を得て、見せていただき、講師からは歴史の話、保存会の方からは、祇

園祭の運営の難しさや喜び、あるいは「こぼれ話」などをお話いただきました。フィールドワークのため、参加者は30名と限られてしまいましたが、放送による講義後に、それに関連した実物を見たり、関係者の生の声を聞いたりしたことで、より学習が深まったようです。講義とフィールド学習を体系的に組み立てられたことは、この事業の大きな成果となりました。



生涯学習ツアー

## 「シティカレッジ事業」で エル・ネット「オープンカ レッジ」を活用

大阪市教育委員会事務局  
市民学習振興課

大阪市では、シティカレッジ事業を重要な柱のひとつとして運営しています。この事業は、大学連携事業・高齢者大学・職業教育など、多方面にわたって実施されており、この中で、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用し、企画立案をしていきました。今年度は、仙台大学・群馬

県立女子大学・淑徳短期大学・久留米信愛女学院短期大学・岩手大学の講座を活用し、市民の方々に講座を提供しました。中でも、60歳以上の方を対象とした「いちょう大学」では、群馬県立女子大学講座『萩原朔太郎と「郷愁」』や岩手大学講座『啄木の魅力、賢治の魅力』を受講し、大変好評でした。

広報は、独自のチラシを作成し、各受信施設に配布するなど、力を入れました。このような、「しかけ」を作って、エル・ネット「オープンカレッジ」を継続的にPRしていくことによって、受講者も徐々に定着していくようです。

また、大阪市では、ほぼすべての小

学校に、「生涯学習ルーム」が設置されています。これは、小学校の特別活動室などを活用し、地域住民の方に、自主的な文化・学習活動の場を提供しているものです。

今後は、この「生涯学習ルーム」に、講座を録画したビデオテープを貸し出し、より多くの市民に講座を提供できるよう考えています。



広報用チラシ

## 拠点施設の設置 ライブラリー化など 多様な活用を探る

広島県立生涯学習センター

広島県では、広島県立生涯学習センターを拠点施設として、エル・ネット「オープンカレッジ」のライブラリー化や学習ボランティアの育成を行ったり、東広島市や広島市まちづくり市民交流プラザの各会場と相互に連携・協力しています。

ライブラリー化については、DVDとビデオテープで録画・保管し、貸出しを行っています。録画は、広島市まちづくり交流プラザの会場と共同して行っており、どち



受講風景

らかが受信できなかった場合などに、DVDを送るなどして、お互いに助け合いながら、事業を進めています。テープは個人への貸出しもできますが、特に学習グループでの活用を提案しています。まだ、始まったばかりですが、熱心な学習グループが多く、今後の展開が期待されるようです。

また、エル・ネット「オープンカレッジ」を活用した学習ボランティアを募集したところ、定員よりも多い約30名の応募があり、定期的に学習活動を行っています。まず、ワークショップ

で、エル・ネット「オープンカレッジ」のイメージを聞いたところ、プラス面として「自分のペースで学習できる」、「テープを活用して、公民館等で学習活動が展開できる」といった意見、マイナス面として「PR不足」といった意見が出てきました。また、「講師の先生を広島へお呼びして学習したい」、「カメラワークに工夫が欲しい」といった要望も出されました。今後、ボランティアの方々によって、エル・ネット「オープンカレッジ」が、どのように活用されていくのか、楽しみです。



ワークショップ風景

## 拠点施設の設置 コンピュータを 多様に利用して

島根大学生涯学習教育研究センター

島根大学のモデル事業では、松江市生涯学習センターを拠点施設として、エル・ネット「オープンカレッジ」を多様に活用しています。1つは、講座をコンピュータによりハードディスクに録画し、DVDやビデオテープにして、県内市町村の公民館等への貸出しを行っています。受信設備を持たない公民館へはもちろん、受信設備を持っている施設へも、録画し忘れた場合な

どに、テープを貸出して、講座の運営に活用してもらっています。今年度の貸出し数は、80本以上になりました。公民館の担当者からは、「公民館における学習内容・方法・形態の多様性拡大のために、今後も継続して積極的にエル・ネット「オープンカレッジ」を活用していきたい」との声が届いています。

もう1つは、松江市生涯学習センター内で行っている「松江コミュニティ・カレッジ」における活用です。ここでは、エル・ネット「オープンカレッジ」や島根大学教員OB会の先生方の直接講義が提供されており、市民がメニュー方式で受講できるようになっています。個人へのビデオ貸出しもされており、3か月間で約80本の貸出し



松江コミュニティカレッジの開講式風景

がありました。

また、インターネット上で運用できるグループウェアを導入して、市町村担当者の講座企画・運営の支援や受講者への情報提供のためのツールとして活用しています。今後、さらに多様な活用方法が期待されています。

## 第三代携帯電話での 双方向質疑の可能性 2大学共同での講義を イベントにも活用

琉球大学生涯学習教育研究センター

講座：琉球大学・島根大学  
『海流の文化を探る—琉球から出雲へ—』

琉球大学では、島根大学との連携による講座を実施しました。講座は、沖縄・島根両県の文化を解説し、海流のかかわりを探りながら、地域の文化を考える内容です。

沖縄県教育委員会（VSAT局）とも連携し、11月に沖縄県で開催された「第15回全国生涯学習フェスティバルまなびピア沖縄2003」で、エル・ネット「オープンカレッジ」の広報もかねて、VSAT局（沖縄県教育委員会）

から「海からみた琉球史・序章」と題した本講座のプレ講義を放送し、まなびピア会場と島根県の会場とを画像付き携帯電話で結んで双方向質疑を実施しました。まなびピア会場では、大型マルチスクリーンに画像を写し、会場の多数の参加者も熱心に聞き入っていました。画像付き携帯電話を使用することによって送信設備のない受信局から特別なスタジオや放送機器などを準備しなくても、双方向で質疑できることが実証されました。画像付き携帯電話の画像は顔の表情もよくわかり、双方向質疑に十分使用できるものでした。

本編の3講義は大学独自で収録したものを放送しましたが、4講義目は、各講師をお迎え、沖縄・島根両会場を再度画像付き携帯電話で結んで、双方向の質疑応答をしました。

今回のモデル事業では、画像付き携帯電話の有効性の点で大きな成果がありました。



画像付き携帯電話で通信



まなびピア沖縄2003会場

- ◆メールマガジンを毎週水曜日に配信しています。講師・講義スケジュールや最新情報をお届けします。配信を希望される方は下記ホームページからご登録ください。
- ◆放送日及び講座内容は変更されることがあります。ご了承ください。また、天候により番組を見ることができない場合があります。
- ◆講座内容、テキスト等詳細については、下記ホームページでご確認ください。
- ◆問い合わせ 高等教育情報化推進協議会 電話03-3591-2186

[www.opencol.gr.jp](http://www.opencol.gr.jp)